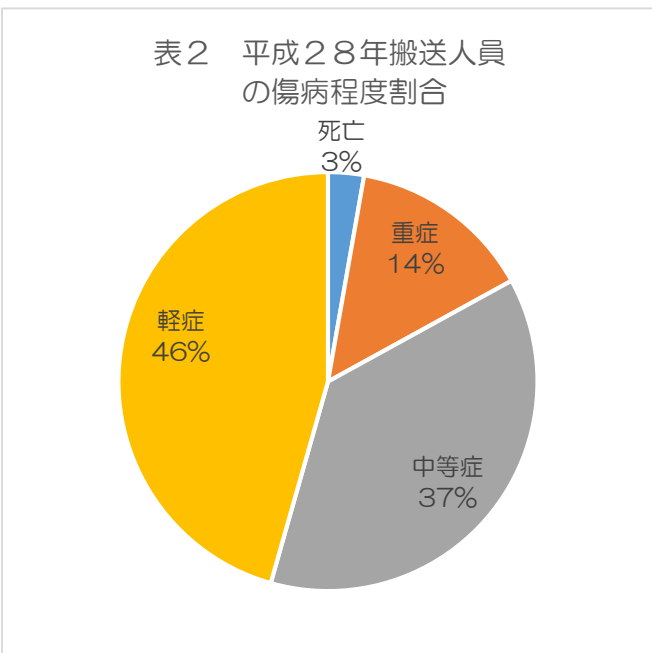
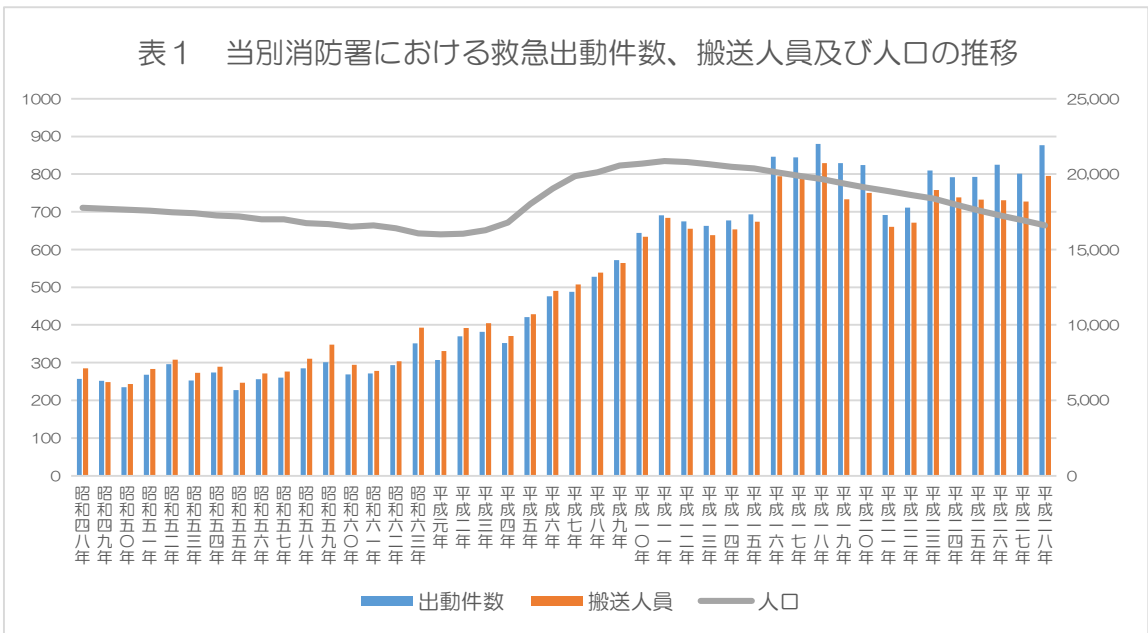


平成28年 救急概要

平成28年の当別消防署における救急出動件数は、平成18年の880件に次いで2番目に多い877件（前年比76件の増）で、搬送人員は平成18年の829名、平成17年の799名に次いで3番目に多い795名（前年比68名の増）でした。当別町の人口は近年減少していますが、救急件数、搬送人員は反するかのように年々増加傾向となっています。（※表1参照）



搬送人員の傷病程度内訳としては、死亡が22名、重症が113名、中等症が298名、軽症が362名で、半数近くが入院を必要としない軽症者でした。（※表2参照）



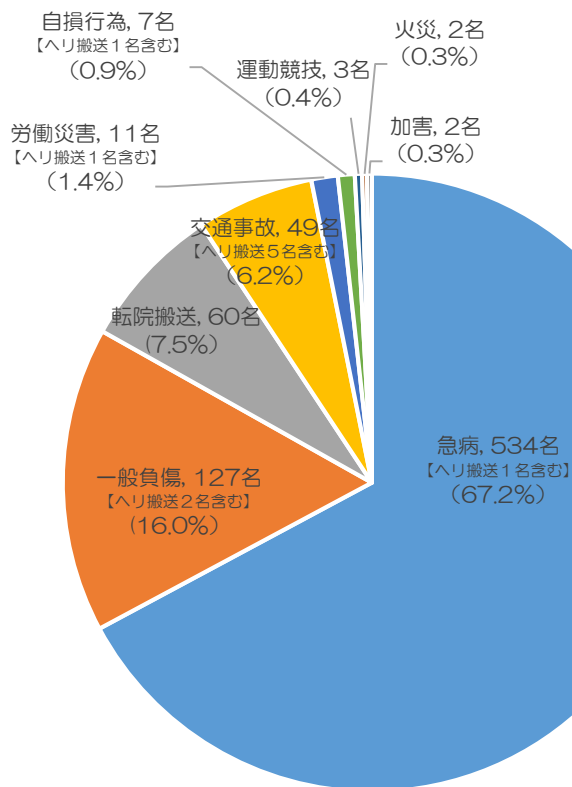
搬送人員における救急事故の種別の内訳としては、急病が6割以上を占め、一般負傷、転院搬送、交通事故の順となっています。

また、通報内容や事故の発生時間帯によってドクターヘリを要請したものが25回あり、そのうち10名の傷病者を道央ドクターヘリにて搬送しています。

(※表3参照)



表3 平成28年搬送人員の救急事故種別内訳



搬送した医療機関は、当別町内が17名(2%)、江別市内が105名(13%)、札幌市内が661名(83%)、その他(石狩市内など)が12名(2%)でした。町外の医療機関への搬送が98%と多いことから、救急車が出動して帰署するまでの平均所要時間は1時間35分となっています。そのため、当別消防署の救急車が帰署するまでの間に別の救急事案が発生した場合には、他の市町村(石狩市、新篠津村など)の救急車に出動を要請することになります。平成28年は他の市町村の救急車による対応が31件ありました。この中には、心肺機能停止の重篤な救急事案も含まれており、救急車の適正利用は大きな課題となっています。

救急車は
地域の限られた救急資源



当別消防署における消防覚知から現場到着までに要した平均所要時間は約9分で、この所要時間は全国平均8.6分と同程度となっています。

心肺機能が停止した傷病者に対し、その場にいる関係者が、救急車到着までの間に応急手当を施すことで救命率が大幅に向上します。そのため、当別消防署では一人でも多くの命を救うため、普通救命講習Ⅰ（3時間）、救命入門コース（90分）、一般救急講習（任意の時間）などの救命講習を実施し、これまで多くの住民や事業所等が受講されました。これからも積極的に受講を呼び掛け、応急手当の普及に取り組んでいきます。（※表4参照）

